

地域医療のあり方

予防医療の充実と連携

地域医療



重山雅世 議員

議員 今、地方でも都市でも医師不足が社会問題となっているが、政府の医師数抑制の結果である。その打開策としてOECD加盟国の平均医師数より14万人も少ない医師数を計画的に増やし、診療報酬の総額削減をやめるべきである。首长として住民の生命を守る為①地域医療のあり方について②公的病院の医療機能縮小で医療費削減が真の狙いの「公立病院改革ガイドライン」について③栗山赤十字病院に対しての財政支援の方向性、以上伺う。

町長 地域医療とは、安心して暮らすことができる様、見守り支える活動です。地域医療のあり方は、予防医療の充実、超高齢社会に対応した円滑なケア連携、病診連携の強化が重要であると認識している。公立病院改革ガイドラインの目的は医療を継続提供しつつ、病院経営を効率化することと考える。経営効率化、再編、ネットワーク化経営形態の見直し等、ガイドラインによる改革は必要と考えている。本町の限られた財源による支援は慎重に検討せざるを得ないと考えている。救急体制維持に係る対策や、病院本体の運営支援について、可能な方策を早急に示すよう努力しますので、ご理解願います。

町長 議員として日赤病院を残していきたいのか、あるいは病院を残したいのか、その辺のところの議員としての考え方を確認をさせていただきたい。

議員 総合病院的な役割、南空知のセンター的病院としての中核をなしている点で日赤病院はなくてはならない。それは、住民の声でも、一般会議の中でも、いろいろな接遇の問題などの不満もありながらも、なくなったら困ると皆さん声も出しておられますし、私も当然日赤はなくすわけにはいかないと。経済的な波及効果もかなり影響あると思いますから、何としても存続させる立場であります。



栗山赤十字病院は南空知の基幹病院

